

Top News

2016年 申年

年頭のご挨拶



理事長 豊國 伸哉  
(名古屋大学医学系研究科 教授)



新年を迎え、会員みなさまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。私の理事長としての責務は2年目となりました。吉川敏一学長、小澤俊彦教授のお二人の理事長が育ててこられた本学会をさらに発展させ、学際性を高め社会に貢献できる存在にしていこう努力する所存ですので、会員みなさまの御協力、御支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

最近本学会のグローバル化は確実に進んでいると感じており、昨年末にはSFRR Asiaがタイのチェンマイで、SFRR Australasia-JapanのJoint Meetingがニュージーランドのクライストチャーチで成功裏に開催されました。これは最初の設計図が秀逸であったことを意味します。

酸素は私たちの生命を紡ぐ重要な要素の1つであり、酸化ストレスは生物学・農学・薬学・医学のほぼ全領域に関連します。酸化ストレス研究の内容は生化学会、分子生物学会、癌学会、病理学会、薬学会、農芸化学会、内科学会、外科学会など、本学会より大きな学会でも論じられておりますし、特定の酵素、金属や化学反応に関しては小ぶりの学会や研究会でも論じられています。私からのお願いは、酸化ストレス研究を他の学会でも多数発表して宣伝に努めていただきたいということ、他の学会から得られた新しい情報を酸化ストレス学会にも是非持ち帰って発表していただくということです。また、できるだけ多くのひとに入会を勧めていただきたいと思っております。このあたりは最近の年次総会でも徐々に実践されつつあることかと思っております。最終的に、この学会を酸化ストレス研究のメッカならびに増城(るつぽ)にしていきたいと願っております。今年の年次総会は、例年と異なり8月に、赤池孝章会長のもとで仙台において開催される予定です。

学際的には、文科省新領域研究として「酸素を基軸とする生命の新たな統合的理解H26-30」と「プラズマ医療科学の創成H24-28」が走っており、多くの学会員が新たな切り口で参画しています。また、学会誌としてJournal of Clinical Biochemistry and NutritionとSFRR Asiaの学会誌Free Radical Researchをデータ公表の基盤として有するメリットは大きいと思っております。毎年お願いですが、投稿のみならず、査読にも是非積極的に参加していただき、editorial boardに1人でも多くの学会員が入るように努めていただきたいと思っております。常勤スタッフの会員は月1の査読は最低限の義務です。サイエンスは査読によって進展しているという仕組みを十分に理解し、貢献していただく必要があります。したがって、今後、本学会がさらに発展していくためには、若手・中堅研究者の研究力ならびに英語力がますます重要になってくると考えます。今年は、2年に一度のSFRR Internationalが開催される年です。会員の先生がたには是非海外の学会でも発表を重ね、自らの英語力を存分に磨いていただきたいと思次第です。

末筆になりましたが、本年も会員各位におかれましては、健康と安全に十分に留意され、ますます御活躍になることを祈念しております。

\*\*\* 役員報告 \*\*\*

2015年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

新名誉会員: 大和田 滋

新功労会員: 玉井 浩、小城勝相、斎藤衛郎、平松 緑、堀 均、高橋和彦

新評議員: 岡崎泰昌、多田美香、小暮健太郎、七里元督、竹村茂一、堅田和弘、赤塚慎也、犬童寛子、内山和彦

※学会の中核を担う役員のご推薦は、規約をご確認の上、事務局まで必要書類をご準備の上、ご連絡お願い致します。

訃報: 本会名誉会員として長きに亘りご尽力賜りました、早石 修先生がご逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第69回日本酸化ストレス学会学術集会

日時: 2016(平成28年)8月30日(火)~31日(水)  
会場: 仙台国際センター(仙台市宮城地下鉄東西線国際センター駅徒歩1分)  
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地  
TEL 022-265-2211  
<http://www.aobayama.jp/>  
ホームページ: <http://www.sfrj69.jp/>



開催のご挨拶

赤池 孝章 (東北大学医学系研究科 教授)

第69回日本酸化ストレス学会学術集会を平成28年8月30日(火)~31日(水)の会期で、仙台国際センターにて開催いたします。本学術集会は、本学会が2007年に酸化ストレス学会として統合され新たに発足して以来東北地方では初めての開催となります。酸化ストレス研究の発展に貢献できる有意義な年次学術集会になりますよう、現在鋭意開催の準備を進めております。

本学術集会では、酸化ストレスの最新研究を取り上げたプログラムを企画しています。一般演題以外の内容としては、特別講演では京都大学の森 泰生先生と九州大学の住本英樹先生に、また、教育講演では弘前大学の伊東 健先生と東北大学の本橋ほづみ先生に、各先生のご専門分野の最新の研究成果をまじえてご講演をいただきます。シンポジウムでは、「親電子シグナル制御」、「低酸素・チャネル制御」、「酸化ストレスと発がん」、「活性イオンシグナル制御」など、近年研究進展の著しいトピックに焦点をあて各分野の最先端研究をご紹介します。加えて、呼吸器・循環器を中心とした臨床と酸化ストレスに関するセッションや特別講演も予定しています。プログラムの詳細につきましては、本会ホームページ(<http://www.sfrj69.jp/>)等で随時掲載いたします。



仙台では昨年12月に地下鉄東西線が開業し、仙台駅から会場の仙台国際センターまでのアクセスが格段に良くなりました。会員の先生方におかれましては、本学術集会には是非ご参加いただきたくお願い申し上げます。

第70回日本酸化ストレス学会学術集会

会期: 2017(平成29)年6月28日(水)~29日(木)  
会場: つくば国際会議場  
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2丁目20-3  
<https://www.epochal.or.jp>  
会長: 長崎 幸夫(筑波大学教理物質系 教授)



日本過酸化脂質・フリーラジカル学会と日本フリーラジカル学会が合併し、日本酸化ストレス学会が誕生した2007年以来、10回目の記念すべき学術集会を茨城県、つくばの地で開催させて頂くこととなりました。筑波山麓に広がるつくば市は古くから多様な文化が形成されてきました。1970年代の研究学園都市の建設を契機に科学万博を経て、最先端の科学技術拠点へとめざましい発展をとげてきています。そのつくばに2005年、つくばエクスプレスが開業し、秋葉原からわずか45分と驚くほどに便利になりました。開催予定のつくば国際会議場はつくば駅より徒歩8分の位置にあります。つくばの自然、酒、食、科学にふれながら、酸化ストレスを語る有意義な時間を過ごしていただければと思っております。事務局一同精一杯努力する所存ですので、関係各位のご支援をお願いするとともに、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。



## ～ 2015年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第68回学術集会(2015年6月鹿児島開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

### 「2015年度 学会賞 を受賞して」



山本 順寛 (東京工科大学応用生物学部教授)

この度は学会賞を頂戴し大変光栄に存じます。豊國理事長をはじめ沢山の先生方に励ましていただいたおかげと感謝しております。教え子たちがお祝いの会を開いてくれたことも感激でした。学部を卒業したら公務員になるつもりで、試験も受かっていましたが、2年間猶予を与えてくれるということで修士に進みました。研究は大人の謎解きと知って博士に進むことも選択かと思ひ、10人以上に相談したところ全員就職してはいけないということで、研究にさらに熱中しました。二木鋭雄先生、Bruce Ames教授、Keith Ingold教授、中野稔教授らにご指導をいただきましたが、Roland Stocker博士やWalter Dunlap博士、吉川敏一先生をはじめとする多数のお医者様、三菱化学などの企業との共同研究も楽しいものでした。

工学部出身ですから、何事か人の役に立つことができれば有り難いと考えていましたが、まさか脳梗塞の薬(エダラボン)の開発に加わったり、酸化チタンの安全性に関してFDAの疑問に答えるはめになるうとは思っていませんでした。過酸化脂質の分析を妨害したコエンザイムQ10には健康長寿の観点からも、その結合タンパク質であるプロサポシンやサポシンBの観点からも大きな魅力があります。2015年にエダラボンがALS治療に追加認定されましたが、その作用機序がペルオキシナイトライトの消去と明らかに出来たことにもびっくりです。他の神経難病への応用も視野に入ってきました。困難な課題を与えられたら逃げずに飛躍のチャンスだと思えたことが良かったと思います。若い頃知った道元の「信仰に衣食あり」という言葉が好きですが、一生懸命やっていたら何とかなると自己流に読み取っています。今しばらく研究を掘り下げる時間が与えられている間は若い人たちにも負けないように頑張りたいと思っています。ユニークというか、わがままな研究人生を支えてくれた学生さんたちと家族、とくに家内に心から感謝します。

### 「2015年 功労賞 を受賞して」



二木 鋭雄 (産業技術総合研究所)



この度、日本酸化ストレス学会功労賞を受賞し、誠にありがとうございます。学会名誉理事長である吉川先生、豊國理事長をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。特に、1980年、名古屋でのLipid Peroxideに関する国際会議(八木國夫先生会頭)に参加して以来、35年間にわたって多くのことを教えていただいた大石誠子先生とともに受賞したことを嬉しく思っております。これまで、酸化ストレスに関する研究を進めるにあたって、数多くの先生方と楽しく、有意義な時間を過ごすことができましたことに感謝しております。

当初、活性酸素による酸化ストレスが疾患の原因となり、抗酸化物はそれを抑えるものである、と広く受けられていました。現在では、活性酸素、酸化ストレス、抗酸化物、いずれにも多面的な影響を及ぼす性質があることが明らかになり、酸化ストレスがより複雑なものであることが認識されています。同時に、混乱している印象も受けています。フリーラジカルの影も少し薄くなり、最近では、**"He/she was radicalized and became a member of IS."**などのように使われることの方が目につきます。この重要な分野の科学と産業の進展、学会の発展をこれから背負う若い人たちに期待し、アインシュタインの次の言葉を送りたいと思います。**"Make everything as simple as possible, but not simpler."**



大石 誠子 (公益財団法人応用生化学研究所)

この度、日本酸化ストレス学会功労賞を受賞し有難く、光栄に存じております。学会名誉理事長吉川先生、理事長豊國先生、学会の理事の先生方に厚くお礼申し上げます。

1977年「日本過酸化脂質研究会」の設立準備委員の一人として本学会に関与して以来38年が経過しました。この間に設立当時の事務局、慶応大学医学部老人内科の五島雄一郎先生および泰先生、研究室では八木國夫先生、初期に過酸化脂質の測定法の開発に参加して下さった大川博博士にお世話になり、また、現在に至るまで多くの先生方にお教え頂いたり、議論できるのは幸せなことで、感謝しています。1980年に事務局が名古屋大学医学部第一生化学教室に移り、ついで京都府立医科大学へ

移るまでお手伝いすることになりました。名称の変更も行われ、他の関連学会と合併したとはいえ、研究領域が現状のように広がったことに感慨一人です。発起人の先生方の多くは鬼籍にお入りになっており、この状況をご覧頂けないのは誠に残念なことです。1980年11月名古屋での国際会議「Lipid Peroxides in Biology and Medicine」の開催も思い出に残る1つで、今回本賞授与と共に受けた二木鋭雄先生ともお会いでき、新しい方法、見方を示唆して頂いた良い機会でした。

「抗酸化」という言葉が巷にも急激に溢れているような昨今ですが、酸素が諸刃の剣である様に、過酸化脂質、活性酸素、抗酸化物質も両面のあることが明らかになってきています。この点については、発起人のお一人早石修先生が「過酸化脂質研究」第1巻(1978年)に寄せられた巻頭言「過酸化脂質序説」の中で、考慮しなければならぬと指摘されている点でした。この学会ではこうした点も含めて幅広く研究が進められ、豊國理事長が希望されておいでのように、「酸化ストレス研究のメッカならびに坩堝となる」ことを願っています。

### 「2015年 学術賞 を受賞して」



高木 智久 (京都府立医科大学消化器内科 准教授)

この度、伝統ある日本酸化ストレス学会において学術賞を頂くことができ、大変光栄に感じております。これまでの研究活動においてご指導頂きました多くの酸化ストレス学会の諸先生方に厚く感謝申し上げます。

酸化ストレス学会名誉理事を務めておられます吉川敏一先生の主催する研究室に所属し研究生活を開始したのは、私が医師となって京都府立医科大学第一内科に入局し、臨床医になって5年目のことでした。臨床現場では消化管炎症を専門的に診療していたこともあり、腸炎病態における酸化ストレスの関わりについてのテーマをたくさん頂きましたが、当時は、何の意味があるのかよく分からずにTBAを延々測定していたのが思い出されます。ここ10年程はHeme oxygenaseやそのby-productの一つである一酸化炭素を中心に腸管炎症における役割や新規治療分子としての可能性について検討を続けており、本学会でも多くの発表の機会を頂き、多くの建設的ご意見を頂きながら、少しずつではありますが研究を進展させることが出来ました。今回、この様な賞を頂きましたのもこの延長線上にあったものと改めて皆様に感謝申し上げる次第です。このような素晴らしい賞を頂きましたことを大きな契機として今後、本学会の発展に少しでも貢献できる様、一層研究へ精進して参りたいと思っております。

末筆になりましたが、私の研究を全面的に御指導いただきました吉川敏一名誉理事長、内藤裕二副理事長をはじめとする日本酸化ストレス学会の会員の皆様、ならびに、私を支えて下さる教室の同僚、若い先生方に深謝申し上げます。

この度は、誠に有り難うございました。



土肥 謙二 (東京慈恵会医科大学 准教授)

このたび伝統ある日本酸化ストレス学会において学術賞を受賞させていただき、身に余る光栄と感じております。

私は前所属である昭和大学で脳保護と神経炎症について研究していた時に池田幸穂先生(現、東京医科大学)と出会い、ご指導のもと酸化ストレス研究の道へ足を踏み入れました。その後は神経救急領域における神経炎症と酸化ストレスについての基礎研究ではグリとフリーラジカルの病態解明とその制御についてのin vivo研究、臨床研究についてはフリーラジカルやROSをバイオマーカーとした酸化ストレスモニタリングや脳保護法の開発について研究を進めてきました。そして活性酸素消去剤の効果、脳低温療法における酸化ストレスの動態などについて報告してきました。今回「重症脳損傷後におけるアルツハイマー病の発症機構の解明と新規予防法の開発」として水素水の機能水としての効果と機能解明について、神経炎症と酸化ストレス、さらにはミトコンドリアの機能障害についての検討が評価されたことによる受賞でした。今後は急性障害のみならず高齢化社会でより懸念される神経老化、神経変性疾患における脳保護法の開発に向けての研究を進展していければと考えております。

最後に今回の受賞は、今までの研究を支えてくださった佐藤和恵先生をはじめとする多くの先生方や同僚の支えなくてはあり得なかったと心より感謝いたしております。また、学会員の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

「2015年 学術奨励賞 を受賞して」

東村 泰希 (京都府立医科大学 生体食品機能学講座)

この度は、日本酸化ストレス学会学術奨励賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。理事長である豊國伸哉先生、第68回学術集會会長である馬嶋秀行先生をはじめ、本学会の諸先生方に厚く御礼を申し上げます。また、日頃より御指導頂いております京都府立医科大学の吉川敏一先生、内藤裕二先生、ならびに研究室の諸先生方に、この場をお借りし御礼申し上げます。

今回の発表におきまして私は、古くから知られております炎症性腸疾患患者の低血鉛血症に着想を得て、血鉛欠乏に伴い腸管炎症が増悪すること、またその背景にはマクロファージの細胞内レドックス制御に起因した機能的変化が関与する可能性を御報告いたしました。本受賞を励みに、私の研究が酸化ストレス学の発展に少しでも貢献できるよう精進する所存です。今後とも、御指導御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

坂本 太郎 (北里大学薬学部)

この度は学術奨励賞を頂き、大変光栄に感じております。日本酸化ストレス学会理事長 豊國伸哉先生、第68回学術集會会長 馬嶋秀行先生をはじめとする本学会の先生方に心より御礼申し上げます。また、これまでにご指導賜りました先生方、共同研究者の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。

今回は、リン脂質過酸化物の消去酵素であるPHGPxを欠損した線虫(C.エレガンス)を用い、主にリン脂質過酸化物の蓄積と寿命の短縮効果について発表させて頂きました。質量分析計を用いることにより微量な脂質酸化物の検出が可能になりましたが、それがいつどこで生成し、どのように消去されるのか、という代謝の流れについては不明な部分も多く残されています。今後この受賞を励みに研究を積み重ね、成果を発表して参りたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。

松村 有里子 (東京工業大学大学院 生命理工学研究科)

この度は2015年度学術奨励賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じております。理事長の豊國伸哉先生、第68回学術集會会長の馬嶋秀行先生、賞選考委員をお務め頂きました諸先生方、さらに日頃ご指導・ご鞭撻を頂戴しております日本酸化ストレス学会の諸先生方に心より感謝申し上げます。また、これまでご指導を賜りました東京工業大学大学院 河野雅弘先生、岩澤篤郎先生、昭和薬科大学小澤俊彦先生、大阪市立大学西岡孝訓先生、ならびに共同研究者の方々がこの場をお借りし御礼申し上げます。

今回、「各種アミノ酸と活性酸素種との反応」について発表させて頂きました。必須アミノ酸に対する活性酸素種(ヒドロキシルラジカル、一重項酸素、スーパーオキシドアニオンラジカル)消去能の検討を行い、タンパク質の変性にヒドロキシルラジカルに加えて一重項酸素が関係していることが明らかになってきたところです。今後この受賞を励みに、活性酸素に関する基礎的研究を行っていく所存ですので、御指導、御鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

(左から 豊國理事長・坂本・松村・東村 各氏)



「八木記念学術奨励賞 を受賞して」

岡崎 泰昌 (名古屋大学大学院医学系研究科)



この度は、名誉ある八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じています。日本酸化ストレス学会理事長の豊國伸哉先生、前理事長の小澤俊彦先生、本賞を創設された名誉理事長の吉川敏一先生、第68回日本酸化ストレス学会学術集會会長の馬嶋秀行先生をはじめ、諸先生方にお礼を申し上げます。本賞の授与対象として頂いた研究論文は、非平衡大気圧プラズマを用いた酸化ストレス研究の報告です。名古屋大学は、日本でも世界でもトップクラスのプラズマ研究施設を有し、一丸となって新分野を開拓するという意気にあふれた研究環境で、研究を続けさせて頂いています。また、名古屋大学医学部生化学教室を主宰されていたらっしゃった八木先生のお名前を冠した奨励賞を頂ける事に、大変な御縁を感じています。本賞を励みに、酸化ストレス・プラズマ研究に今後も邁進して参りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

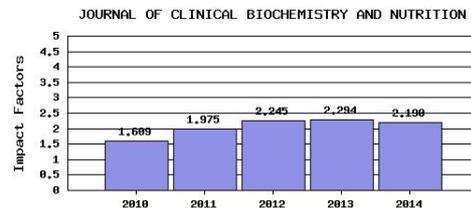
JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報  
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中!  
Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

現在の Impact Factor : 2,190 (2014)



JCBN随時オンライン投稿を受付中

毎年会員の投稿の若手研究者(男性 40歳以下、女性 45歳以下)の中より、前年度発表の最優秀論文に対して、八木記念学術奨励賞を授与しております。会員各位の投稿をお待ちしております。また、新役員(理事・評議員)申請には、JCBNへの投稿実績が必要ですので、是非お早めにご投稿頂けますようご案内申し上げます。

※特別審査・掲載なども受け付けております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@koto.kpu-m.ac.jp>

国際学会参加のススメ

国際学会に参加しましょう!それだけでも勉強になりますし、仲間も増えます。可能なら、参加だけではなく自らの研究成果も発表しましょう!チャンスはいっぱいあります。続きは下記の国際学会で!



今後開催の関連学会

The Oxygen club of California 2016 World Congress  
会期: May 4-6, 2016

会場: Davis convention Center, the University of California, California USA

詳細: <http://oxyclubcalifornia.org/OCC2016/index.php>

Society for Free Radical Research - Europe Annual Meeting

会期: June 8-11, 2016

会場: Budapest, Hungary

詳細: <http://sfr-e-2016.hu>



次回SFRRI International

\*\*\*\*\*  
Joint Meeting of Society for Free Radical Biology and Medicine (SFRBM) and Society for Free Radical Research International (SFRRI)

会期: November 16-20, 2016

会場: Hyatt Regency Embarcadero Hotel San Francisco, California USA

Further information:

[www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information](http://www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information)



※SFRRIでは、若手奨励の為の賞を授与予定ですので、若手研究者で会員の方は是非、演題応募(口頭・ポスター問わず)の上、是非ご応募ご予定下さい。SFRRI Asiaならびに日本酸化ストレス学会より各賞を授与予定。

本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちいたしております。

申込方法は、学会HPをご覧ください。  
<http://sfrj.umin.jp>

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

**第32回臨床フリーラジカル会議**

会期:2016年1月29日(金)午後~30日(土)午前(予定)  
会場:烟河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)  
当番世話人:吉川 敏一(京都府立医科大学学長)  
問い合わせ先:e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp



※若手・ベテランを問わず、宿泊を伴う中で、時間を気にせずじっくりと討議して頂ける研究会となっております。ギリギリまで参加受付中。お問い合わせ下さい。

**日本酸化ストレス学会 東海支部 第4回学術大会**

日時: 2016(平成28)年2月6日(土)13:00-17:00  
会場: 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 6号館 6103教室  
〒513-8670 三重県鈴鹿市南玉垣町3500-3  
Tel: 059-340-0550(代表)



<http://www.suzuka-u.ac.jp/index.shtml>

実行委員長: 川西正祐(鈴鹿医療科学大学大学院薬学研究所)  
詳細: <http://sfrtokai4.wix.com/suzuka-4>

**第16回日本NO学会学術集会**

会期:2016年5月20日(金)~23日(月)  
会場:仙台国際センター  
会長:福永 浩司 先生(東北大学薬学系研究所 薬理学分野)



**第9回国際NO学会**

会期:2016年5月20日(金)~23日(月)  
会場:仙台国際センター  
会長:下川 宏明 先生(東北大学医学系研究科循環器内科)

詳細:学会HP <http://www.secretariat.ne.jp/nosj/>

シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第9回



向井 理恵  
徳島大学大学院 医歯薬学研究部  
食品機能学分野

2015年は平和について考える機会が多くありました。しかし、私は「社会科」と呼ばれる教科にあまり興味が無く、ほとんど勉強してこなかったため、社会科(歴史)の書籍(生徒向けの教材)を読むことにしました。無知な私は、それらの書籍には史実が書かれているのだろう、と思っておりましたが、著者の考えに基づく記述が多いことに違和感を覚えました。

そんなころ、文系研究者の方々にお会いする機会があり、研究の進め方について教えていただきました。事実とは何かという点において、主観を取り除けるだけの十分な情報(史料)を収集して分析する、ということでした。これは科学研究の進め方と同様であると感じました。つまり、主観が入っている(と私が感じた)書籍に対する違和感の原因は、歴史が文系分野であることではなく、事実とそれに対する解釈とが混在されていることにあったと思います。

科学研究においても、議論するときには実験事実が追加されず。この解釈の追加によって事実が見えにくくなるかという、一概にそうとは言えません。特に、先達の方々の解釈には、その分野を発展させるさまざまな鍵が含まれていると感じます。事実とその解釈との違いをはっきり認識することで、解釈が示唆する可能性が活かされるのだと思うようになりました。

私の研究対象は食品ですので、研究者以外の方にも身近に感じただけ機会が多いようです。その分、研究結果に対する無謀な解釈が独り歩き(場合によっては猛ダッシュ)することがあります。私にとっては悲しいことですが、極端な場合にはある種の食材が売切れることもあるほどです。研究者の端くれとして、研究データに謙虚に向き合い、適切な解釈ができるように研鑽を積んでゆきたいと感じております。

◇ SFRR International & Asia News ◇

**Congratulation!**

2015年に開催されました SFRR Asia ならびに SFRR A+J国際会議にて、下記方々が若手奨励賞(Young Investigator Award)が受賞されました。益々のご活躍をお祈り致します。

① 7<sup>th</sup> Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia (November 29<sup>th</sup> to December 2<sup>nd</sup>, 2015, Chiang Mai, Thailand)

**SFRR Asia YIA (計6名)**

- 1) SFRR ASIA TRAVEL AWARD Supported by T&F  
田中 信, Nuttavut kosem
- 2) SFRR Asia Young Investigator  
石田悠馬
- 3) T & F Young Investigator Award  
Vong Binh Long, 堀田祐馬
- 4) T & F Prestigious Poster Award  
池田 豊

**SFRR Japan YIA (1名)**

池田 豊

② 7<sup>th</sup> Joint Meeting of the Societies for Free Radical Research Australasia and Japan (December 7<sup>th</sup>-10<sup>th</sup>, 2015, Christchurch, New Zealand)

**SFRR Japan YIA (計5名)**

本間拓二郎、平川実保、管尚子、渡辺真美、飯田沙也加(以上5名)

**【オフィシャルジャーナル】 “Free Radical Research”**

[http://sfrjr.umin.jp/asia/en\\_Official\\_Journal.htm](http://sfrjr.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm)  
会員特別価格での定期購読の受付を行っています。  
ご購入希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びに SFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

**【会費納入らびに連絡変更のお知らせのお願い】**

新しい年が明けました。今年は暖冬と言われておりますが、風邪等も流行っているようですので、会員の皆様におかれましては、体調管理には益々ご留意され、良い一年となりますように、お祈り申し上げます。今年も日本酸化ストレス学会を宜しく願い申し上げます。



さて、毎度毎度お願いで恐縮ではございますが、ご所属や連絡先の変更があった場合は、速やかに事務局までご連絡をお願い致します。転居先不明などで、追跡不能になった場合は、やむを得ず退会処分となる可能性もあります。事務局へ近況のお知らせも兼ねて、ご連絡をお願い致します。また、学生の方で、卒業後行方不明の方も多発しております。同様に退官などで現役を引退される場合も、お知らせをお願いします。継続が難しい場合で、休会や退会ご希望の場合は、速やかにご連絡をお願い致します。(退会届、休会届けは、HPよりダウンロード出来ます。)

♪♪♪♪♪  
SFRR Newsletter 2016年1月号  
発行:2016年1月1日

SFRR Japan Newsletter に掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (総務委員会:内藤裕二・半田 修)  
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465  
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内  
TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521  
E-mail: [sfrjr@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:sfrjr@koto.kpu-m.ac.jp)  
HP: <http://sfrjr.umin.jp/index.htm>